

劉曉波とカール・フォン・オシエツキー

2010年度ノーベル平和賞が中国の反体制活動家で詩人・作家の劉曉波 (Liu Xiaobo) に贈られた。その可能性が高いことは事前に予想されていたとはいえ、この決定は大きな衝撃を世界中に与えた。中国政府は、情報操作によって、この情報が中国国内に完全な形で伝わるのを防ごうとしているので、中国人民12億の多くは未だこの情報に関する世界の状況を知らないようだ。それどころか、劉曉波という人物の名前さえ知らない者が多らしい。現代において、情報を完全にコントロールすることはできないから、早晚情報が広く伝わることは間違いない。しかし、少なくとも短期的には、政府の強引な引締め政策により、中国国内では表立っては何も起きないだろう。

今回の劉曉波へのノーベル賞授与を契機として、中国政府の一方独裁の実態が世界中に知れ渡った。中国は法治国家ではなく、政権の都合によって、人権の無視や制限が簡単に行われることが明白になった。その点では、ノーベル平和賞委員会の意図は既に相当程度達成されたと言ってよい。それには、中国政府の拙劣な対応の仕方も大いに寄与した。ノーベル平和賞委員会やノルウェー政府に事前に圧力をかけただけでなく、委員会の決定をなりふり構わず非難し、ノルウェーと中国との関係への悪影響に公然と言及し、かつ国内では情報遮断を続けている。これは驚くべきことだが、それほどまで、劉曉波をはじめとする反体制民主派の存在は中国政府を追い詰めているのだ

ろうか。そのあたりは、私にはよくわからないことだ。

今回のことがあって、私も劉曉波という人物について、なにがしかの知識を得たのだが、彼が昨年の暮れに日本で出版した「天安門事件から『08憲章』へ」(藤原書店)で見ると、この人は詩人であって、政治家になる人ではない。彼自身関わった、1989年6月4日の天安門事件の犠牲者への追悼と贖罪にも似た強い思いが、それ以後の彼の活動の全てを規定しており、それは今でも変わっていないのだ。劉が起草したと言われる『08憲章』は、共産党独裁の廃止を含む根本的な民主化を訴えるもので、中国の人権宣言とも言えるものだが、劉自身は情念の人なのだ。だからこそ彼の言葉は人を動かすのだが、それこそ中国政府が恐れているものなのだろう。

劉曉波は、天安門事件後に逮捕投獄され、1年半後に解放された。1995年5月に再び拘禁され、一旦解放されたが、また逮捕され、1996年10月から3年間「労働教養」という名目で強制労働に就かされた。これは行政罰で、司法手続を経ないものだったとされる。『08憲章』の発表に絡んで、2008年12月にまた逮捕され、「国家政権転覆扇動罪」により11年の刑を受け、東北部の錦州監獄で現在服役中である。

今回のノーベル平和賞が衝撃的なものだったことの大きな理由は、受賞者が獄中にあるということだった。しかし、実は前例

があったことを、私は今回のことがあって、初めて知った。今から75年も前の1935年に、当時ナチス政権下のドイツで受刑中のカール・フォン・オシエツキー (Carl von Ossietzky) という人物がノーベル平和賞を受賞しており、この時も大騒ぎになったという歴史があったのだ。

オシエツキーのことは、日本では余り知られていないようだが、Wikipediaの日本語版には、一応きちんとした記事がある。しかし、これは英語版の抄訳のようなものだ。ドイツ語版には、遥かに長い記述があるので、読んでみようかとも思ったが、辞書を頼りに読むと時間が相当かかるので、ここでは英文版に出ていることを要約しておこう。

カール・フォン・オシエツキーは1889年10月3日にハンブルクで生まれた。父親は、現ポーランド領の上シレジア地方出身だったが、カールが2歳のときに死去した。オシエツキーの少年時代は恵まれないものだったようで、中等教育も終えていない。しかし、文学や歴史の本を読むのが好きだったので、ジャーナリストとして立つことができた。帝政ドイツ時代に、広い分野で評論活動を行い、軍国主義に反対する平和主義者になった。

第1次世界大戦後のワイマール共和制下では、民主主義および平和主義の熱烈な支持者として政治評論を行い、相当な評価を得るに至っていた。ドイツ共産党やソ連を批判する一方で、早くからナチスに反対する意見を公表していた。1933年1月にナチスが政権を獲得し、ヒトラーが首相に就任した後でも、オシエツキーはナチス批判を止めなかった。

オシエツキーは1933年2月28日に逮捕され、「保護拘留 (英語では protective custody) 」という名目の下にベルリンのシュパンダウ刑務所に監禁された。この逮捕が2日か3日遅れていれば、オシエツキーは間違いなくドイツ国外に脱出することができていただろうと言われている。不幸な

ことに、オシエツキーは、ナチス政権による反対派への弾圧のスピードが速まっていることに気づいていなかったのだ。その後、オシエツキーはオルデンプルク近郊の強制収容所など、幾つかの収容所を転々としていたようだ。

1935年度ノーベル平和賞がオシエツキーに授与されたときには、オシエツキーは病院に入っていた。重い結核に罹っていたが、適切な治療を受けられたのかどうかはわからない。ナチス政府は、この授賞を事前に察知しており、授賞を阻止するために動いていた。しかし、中国政府が今回の劉暁波への授賞を止められなかったのと全く同じように、ナチス政府もオシエツキーへの授賞を止めることはできなかった。ナチス政府はオシエツキーへの授賞を非難し、オシエツキーを授賞式へ出席させることを拒否した。この点でも、ナチス政府の行動は中国政府のものに似ていた。

オシエツキーは自分がノーベル平和賞を受賞したことを知って、受賞を受諾する書付けを発表することはできた。その中で、オシエツキーは「ノーベル平和賞は人々の相互理解の印であり、その相互理解を進めることに私は最善を尽くす」と述べている。その後、オシエツキーは、ベルリン市内の異なる病院に2度移されたのち、1938年5月4日に48歳で死去した。

オシエツキーと劉暁波との間には、時代、国、国際関係について大きな違いがあるにも拘わらず、多くの類似点がある。これを空恐ろしいことだと思うのは私ひとりだろうか。

なお、現代ドイツでは、オルデンプルク大学の正式名称を「カール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルク」 (Carl von Ossietzky Universitaet Oldenburg) としており、こういう形で、オシエツキーの名誉を回復したものと見られる。(おわり)